

教職員・院生版生協だより

No. 245

2003年 1・2月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111

かけはし

第15回音としゃべりの金曜サロン ギターアンサンブル

原田健 ほか

名古屋市民

ギターオーケストラ

首席メンバーによる



名大生協のホームページ (URL) <http://www.coop.nagoya-u.ac.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

年頭挨拶《50周年を超えて》	3
生協への期待—研究科長へのインタビュー①	
後藤俊夫工学研究科長	4
【企画案内】	
名古屋大学平和憲章制定16周年企画	
講演と交流のつどい「若い諸君に訴える」	11
【報告】	
第15回音としゃべりの金曜サロン「ギターアンサンブル」	
世界の名曲をギターの調べで堪能	12
龍ヶ岳ハイキングの報告	23
Fエースのリンゴ産地見学の報告	14
北部生協まつり教職員委員会企画の報告	16
教職員委員会の活動日誌	16
【記事】	
ニュースに一喝！「子育ての負担」「体当たり作戦」	17
新フィールド・ノート—その74—「水戸」	18
魔言「非民主党」「無差別銃撃」「キャンセル待ち」	20
かけはしの輪	22
アンケート・クイズ解答用紙	24
CO-OP QUIZ<Logic>	25
名古屋大学平和憲章	裏表紙

表紙のいとは

音としゃべりの金曜サロンは、昨年の開催で15回となった。最近では毎年秋に開催している。昨年は名古屋市民ギターオーケストラの首席メンバーによるギター・アンサンブルを開催した。参加者は28名と定員には満たなかった。ギターだけのコンサートとはどうなるものかと心配ではあったが、素敵なフルートも加わり、参加者からは「とてもすばらしい生演奏が聞けて良かった」、「生演奏はやっぱりいいですね！」と喜ばれた。食事についてもアンケート回答者全員から美味しいと感想を寄せていただいた。参加者集めに毎年苦労するがこうした感想を聞くとまた今年もと励みになる。(みづのうら)

第15回音としゃべりの金曜サロン
ギターアンサンブル



50周年を越えて

名古屋大学生協理事長 若尾 祐司



21世紀という言葉に少しづつ馴染んできた2003年の年明けです。たしかに、年明けの晴れやかさはあります。しかし、世は不況感一色に塗りつぶされています。実際、この年末に行われた給与水準の切り下げは、ほとん

どの教職員にとって初めての体験であり、定員削減とデフレ・スパイラルの「痛み」を実感させられました。個人的な経験からすれば、1970年代初頭に始まった国立大学授業料値上げ時の「痛み」と重なります。当時の授業料は、いまでは4倍

になっています。来年に予定される大学法人化のなかで、授業料高額化と新たな賃金カットは、大学をどこへ導いていくのか。不安は隠せません。そうした、先行きの見通し困難な状況の中で、名古屋大学消費生活協同組合は50周年の節目を超えて、次の半世紀への第一歩を踏み出します。名

大生協の創立は、1952年に組合員500名で瑞穂区滝子の教養部キャンパスに始まったといわれます。それから、1960年の法人化を経て現在に至るまで、高度経済成長とこれに伴う高度学歴化というペースの上で、名古屋大学の成長と平行して拡

大・発展の道を歩んできました。供給高レベルでは、1970年と比べても現在では8倍に伸びています。これまでは、成長路線をひた走って行くことができたのです。

しかし、ここ数年、日本の経済も大学も高度成長時代を終えたこと、だれの目にも明確です。いまや盲目的な成長至上主義と競争主義に代わって、成熟社会を生きる共生の知恵と作法が求め

られています。名大生協も、過去半世紀の成長率を今後に期待することはできません。成長の限界を自覚し、むしろ持続の中で成熟していく、大学消費組合としての新しい方向づけが必要であり、課題となっています。

この半世紀にわたり名大生協は、組合員の皆さんの力の上に、名古屋大学の学生、教職員、事務部と執行部、そして関係業者の皆さんの支援を得て、現在の地歩を築くことができました。この信頼と信用こそ、次に待ちうける困難な半世紀にのぞむ名大生協の財産です。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、年頭にあたり改めてお願いいたします。

生協への期待—研究科長へのインタビュー①

後藤 俊夫 工学研究科長



聞き手は、皆川清理事（工）、加藤肇理事会室長、柴田敏之理事（工）、今井信彦専務理事、箕浦昌之常務理事（人情）

皆川 国立大学の法人化まで1年と少しということになりました。名大生協では、大学の法人化後も大学にとってなくてはならない存在として認めていただけるよう、中期目標を立てるなどの準備をすすめています。その一環として研究科長先生にお会いし、法人化後の生協にあり方などについて率直なお話をお聞きしたいと思います。進行は加藤が務めます。

加藤 大学の法人化を前にして、生協としてもどんな役割を果たそうかと、いろいろ準備をしておりますが、大学の先生方からも生協に対してどんな要望をお持ちなのか、お話を聞きたいと思っています。そしてその中身を私たちの機関誌を通じて先生方や学生・教職員の方々にお知らせしていきたいと思っています。

きょうは最初に、後藤先生の研究分野についてのお話を。二つ目に、学生へのメッセージを—先生の場合は、以前の名古屋大学もご存知なの

でそんな比較も含めて。三つ目に生協に対して忌憚のないご意見をお伺いし、これからの取り組みの参考にさせていただきます。と思っています。よろしくお願いします。

研究の出发点はレーザー

後藤 私はレーザーに関する研究を30数年続けてきました。最初に手がけたのは、みなさんもきつと見たことがあると思いますが、緑色、黄色などの光を出すアルゴンイオンレーザーです。いまも白鳥からテレビ塔方面に緑色の光が走っていると思います。あれがアルゴンイオンレーザーです。当時は、日本ではレーザーと言っても実際には見ることができず、論文を通してしか知ることができなかった時代でした。そのアルゴンイオンレーザーを新しい方式で発振させる難しい仕事でしたが、苦勞した末、博士課程2年の終わり頃になってようやく発振させることができました。初めて緑色の光を見たとき



きは感激しました。その頃の
研究生活のことは、よく覚えて
います。

その頃から研究の面白さを
強く感ずるようになりました。
その後、助手、助教授とな
り、気体レーザー、金属の
蒸気を利用した金属イオン
レーザー、紫外の非常に強い
光を出すエキシマレーザーな
どを手がけました。教授にな
る頃からはレーザーそのもの
よりレーザーの応用分野にす
すみ、いまは応用が中心で

す。

レーザーの応用研究では大
きく分けて二つの内容があり
ますが、一つはレーザーを材
料とか、マイクロエレクトロ
ニクス——半導体の分野に応
用することです。

太陽光発電素子や液晶ディ
スプレイ、超LSIをつくる
キーになる物質をラジカルと
いいますが、そのラジカルの中
でいちばん重要だと思われる
ものがどれくらい存在する
か。10年ほど前にはそれを測
定する方法がなかつ

たのですが、レー
ザーを使って測る方
法を開発しました。
太陽電池やLSI
を創るときに、薄い
膜を積み重ねたり、
削ったりしていきま

す。そのときプラズマという

ものを使うわけです。ある容
器の中にガスを入れて外から
電氣的エネルギーを加えると
プラズマができ、その中にラ
ジカルができますが、太陽電
池製作に必要なラジカルがど
れくらいあるのか、そういう
情報がまったく得られないと
きに、それを測る方法を開発
しました。それが教授になつ
てからの一つの代表的な仕事
です。このレーザーを使って
新しいラジカルを測る方法
は、いろいろなラジカルに適
用できるものですから、太陽
電池やLSIを効率的につく
る技術に大きな貢献できた
と思っています。

こうした技術はここ10年ほ
どで大幅に進歩してきていま
す。私がこの仕事を始めたの

は12、13年前ですが、それ以
前は太陽電池を創る一番重要
なラジカルは何か計る方法は
まったくなかった、それを見
つけた影響は大きかったです
ね。

柴田 その「ラジカル」をも
う少し分かりやすく話してい
ただけませんか。

後藤 ある容器の中に気体が
あり、そこに電氣的エネル
ギーを与えてやると、その中
で分子が衝突して、その分子
から一つ二つと原子がはぎ取
られていきます。通常、分子
そのものは化学的に安定です
が、そこから原子が1個、2
個とはぎ取られると、これが
活性なものになり、他のもの
と反応するようになります。
これをラジカルといいます。
それがプラズマ中でつくら
れ、基板の上に降り積もって
だんだん膜が出来ていくわけ
です。プラズマ中ではいろいろ
なラジカルが出来るわけだ
ですが、その中で目的の膜をつ
くるのに重要なラジカルは何
かということがわかると、そ
のラジカルを意識的につくる

後藤俊夫先生

工学研究科長・工学部長（2000年4月～）
専門はレーザー工学、量子光工学、プラズマプロセ
ス

後藤研究室のホームページ（URL）
<http://goto.ange.angoya-u.ac.jp/top.html>

ことも出来るようになりまして。

物事をよく見て、見た上でつくるということが大事です。大きな物だったら直接目で見えるけれども、原子とか分子というレベルでは見ることは簡単ではないですね。だから見る方法を開発するというのは重要なことです。まず見る、見てどうなっているということが分かるとうすればいいか分かる、条件等を整備をして物を創るということになります。

10兆分の1秒の超短パルス

レーザーのもう一つの応用として、光通信とか光応用計測技術をテーマにしてきました。その代表的なものを一つだけ紹介しましょう。

ちょうど掌(てのひら)に乗るような装置で、10兆分の1秒という短いパルスをつくることに成功したことです。しかもその波長を連続的に広い範囲で変えることが出来ます。10兆分の1秒という話を

しましたが、これは光が1秒間に0.03ミリだけ進む時間で

す。光は月まで1秒で届きます。月まで約30万キロですから、これは普通の生活ではピンとこないでケタの数字でしよう。これはフェムト秒という世界です。10兆分の1秒を100フェムト秒と言います。こんな短いパルスを創るのは数年前には非常に難しいことでした。たとえ出来たとしてもこの机ぐらいの大きさが必要でした。それがいまでは掌に乗る大きさで出来るようになった。また私のところではそれを特殊なファイバーを通してだけで連続的に波長を可変できるようにしたのです。

この技術は光通信に応用され、すでにNTTが開発して、伝送の容量が一気に2ケタ多い量の伝送を可能にしました。また非常に速い超高速の計測にも応用されています。

柴田 デジタル通信はパルスの組み合わせで信号を送るわけですから、短いパルスはそれだけ短時間にたくさん

報が送れるということですね。

後藤 そう、オン・オフの組み合わせですね。光通信の技術はどんどん進んで、毎秒10ギガビット程度まで実用化されています。映像や質のいい画像など、データのクオリティが求められるほど、加速度的に伝送量のアップが必要になってきます。そこでわれわれの開発した技術を組み込むと、2ケタぐらい伝送量を増やすことが出来る。研究室レベルでは一気に毎秒800ギガビットまで確認されています。

また、私の専門とは近いので詳しい説明はできませんが、生体や生物への応用が考えられています。生体の膜中を速いパルスを使って見るということが出来るそうです。生体・生物の場合、細胞があつて熱を加えると死んでしまいます。フェムト秒ぐらいの短いパルスになると、ほんの瞬間が当たるだけだから細胞は死なない。そうして刺激を与えて、そのあとで

こつてくることを観測することで、細胞の研究をすすめるということですね。

もう一つの応用は、超精密加工の分野です。長いパルスの場合、穴を開けてもその周りがギザギザとなってしまう。それがフェムトになると短時間で一瞬にして開けるから、余分な熱が周りに伝わらず、きれいな穴が開けられます。

この短い光のパルスというのは、われわれが想像していた以上に応用範囲が広がってきています。面白い極限の世界ですね。ちょうど国の予算が50兆円と言われてもピンとこないですが、100円なら分かる。それとちょうど逆で、1秒は分かるけれど10兆分の1秒はよくわからないですね。

今までの研究生活の中で、最初のレーザーを発振させたとき、それから先ほどお話ししたラジカルの測定技術を見つけたとき、最近のフェムト秒・超短パルスの開発をしたとき、その辺のことが私の記

憶に印象深く残っています。

基礎と応用、産学連携について

加藤 先生の研究室の様子、また研究についての後藤先生の基本的な考え方を教えてください。

後藤 私の研究室はプロジェクトの数も多く、学生数も多いのが特徴です。数年前はたぶん名古屋大学でいちばん大きい研究室だったんじゃないでしょうか。4年生も含めると50人近いグループでしたから。いまは適正規模になっています。

研究費も、それだけ大型のプロジェクトを持つているとたくさん必要で、毎年1億を超すぐらいの研究費を使っています。やや装置産業的な分野です。

研究科長になってから、毎日研究室に行けないのですが、助教や助手の人もいて、ま

たドクターの学生もたくさんいますから、現在も精力的に研究を進めています。

私自身は基礎分野から研究を始めていますが、いまはそれを応用、実用化するところまで研究を進めてきます。さきほど例を出した超短パルスの波長可変という技術も実用化されていますし、その前の半導体プロセスの応用もかなり実用化されてきています。いま産学連携の動きがいろいろ起きています。大



学の研究成果を社会に還元せよと言われていますが、私の研究室では前からそういう視点で研究を進めてきました。いまの産学連携というのは、かつての産学共同というような特定の企業と大学が協力するということではなく、もっと大きな国をあげてのもので、だから特定の研究者だけの問題ではなく、もっと広く大学全体、国全体のもので、だから私の研究室でもそういう視点で研究していますし、工学研究科もそういう視点で運営してきました。

先端系の分野では基礎と応用は直結していると、言ってもいいんですけど、基礎だと思っただけでやっていたことがすぐ製品に使える。そういう時代ですから、それを分けることは意味がない。いま基礎だと思っただけで、すぐに実用化されることがあるという視点を持つて、いることが大事だと思

います。研究者として、自らの研究が実用になって世の中の役に立つというのはこんな大きな喜びはないと思います。それがいやだという研究者がいたら紹介してほしいですね(笑)。いますぐではないにしてもそういうものを発見していく可能性はある。ぜひ基礎に止まらず、いかに実用に発展させるかという視点をもちながら研究をすすめていってほしいと思います。

またわれわれは研究をして論文を書くわけですが、その中には特許になるものがたくさんあります。ただ論文を特許にするということを知らないと論文を書くだけで終わってしまいます。特に工学系の人の特許を出すことを積極的にやってほしいと思っています。

また研究を進める際に、環境の問題は避けて通れません。先端的な研究でも環境の悪化を招くような可能性のある技術は許されません。これからは環境への負荷を増やさないような技術を開発するこ

とが必要だと思っています。みんな頭では分かっているわけですが、今や環境・エネルギー・資源の問題と整合するような先進的な技術の開発が求められていると思います。その辺のことを考えながら私自身研究していますし、工学研究科のリーダーとして努力しているつもりです。

知的好奇心を持ち積極的に、柔軟に

加藤 学生、院生にたいし、特に増えてきた大学院生について考えていらつしやること、また期待されることは何でしょう。

後藤 日本は今、全体として厳しい状況にあります。工学とか技術系の分野でも難しい時代です。少し前は半導体の分野では日本は世界のトップでした。いまでもあるところでは高いレベルにあります。が、アメリカやアジアの間に挟まれて苦しい状態です。このままでは日本がダメになる大きな問題になっていま



す。21世紀のつぎの発展のために、若い人はしっかり勉強して、また勤勉さとか誠実さを失わないで、仕事に取り組んでほしい。いまは暗い面ばかり目立っていますけれども、それを克服し、乗り越えていってほしいと思います。

特に環境問題はつぎの研究・技術者がぜひ取り組んでいかなければならない課題で、これは環境だけを切り離すのではなく、学生時代から工学に欠かせない視点として仕事をしてもらいたいものです。

工学研究科では大学院重点化がすすみ、教育研究制度の

改革、建物の整備が進み、教育環境はかなり整ってききました。これから先は工学に限りますが、学生が勉強するところきどうしても受け身的になりがちです。ぜひ能動的に、知的好奇心を持って勉学に取り組んでももらいたいと思います。また社会も、科学技術もどんどん発展している時代です。一つ一つの分野にいつまでもとらわれていると世の中の進歩から取り残されてしまいます。従って柔軟な考えをもって勉強、研究をすすめてもらいたい。まとめて言う

考え方を持って仕事をすすめてほしいということです。

最近の学生は勉強しなくなってレベルが落ちたという話があります。これはある程度は当たっているかもしれませんが。しかし、全体として能力が下がったとは必ずしも言えない。あるレベル以上の学生は能力もあるし、きちんと勉強をしていると思います。ただ名大に限定して言えば、やる気になって勉強すれば出来る人がほとんどです。大学に入って勉強しないというのは、意欲の問題です。受験勉強の反動かもしれない。ゆっくり休んでから勉強しようと思っているのかもしれませんが（笑）。精神的にややゆるみが出ている状態かもしれないと思いますね。

大学の使命は人材育成

今井 最近、大学のあり方とか、存在価値ということが話題にあり、大学自身も変わらなければならぬということをお聞きします。私も先生方から

大学の使命は何かという話を聞くことがあります。生協から見ますと、学生が4年間、6年間と目標を持って過ごすとき、どんなサポートをするかを考えています。後藤先生は大学の本来の使命というものをどのようにお考えですか。

後藤 大学の使命をひとことでは言えませんが、教育・人材の育成ということでしょう。研究も重要ですが、第一義的には人材育成だと思います。どういった人材を育成するかと言え、高度な知識、高い専門能力を持った人材ということになると思います。かつては教養教育と専門教育は分けてやっていたのですが、それは分けてやるものではなく、きちんと連携して行うよう努力しています。

これから研究者・教育者は専門能力だけでなく、広い視野を身につけていかなければいけない、それは専門分野を二つ三つ知っているだけでなく、さっき言った環境の問題とか、人間全体の問題を視野

に入れながら研究・教育をすすめる、そういう時代になってきていると思います。少なくとも工学とか理系に関してはそれが大事だと思います。

また名大では世界トップの研究で日本と世界をリードしていく必要があります。その点を具体的にいえるのは、大学院後期課程の学生を増やしていくことです。いままでの日本はキャッチアップ型で、アメリカなどの動きを見てそれに追いつくということをやってきたわけですが、しかし20世紀の最後の頃になると日本と世界の差がないところまで来たわけで、後は自分たちで新しいシーズを生み出していくという時代になってきています。そうすると若いときに基礎になる勉強や研究経験を積んだ人がもつと要ると思います。後期課程の学生が社会に出て、新しいシーズを生み出す研究をやってほしい。それが無いと日本は世界をリードするような立場に立つことはできない。この人材育成は大事です。

やや理系に偏った話になったかもしれませんが、そのつもりで聞いてください。

皆川 そうなると後期課程の学生に対する経済的な援助も重要になってくると思うんですが。

後藤 そう、いまのように奨学金も少額でしか授業料も払っていないということですから問題があります。われわれとしてはアメリカのような制度をつくることを考えていかなければなりません。多くの人は親やアルバイトに頼っているのが現状ですが、親に頼らないで自分で生活できるようにすることが必要です。奨学金ではなくていわゆる支給するということのような制度がほしい。それが今後の課題ですね。それとドクター修了者を企業に受け入れてもらうことも重要です。幸いに私の関係の電気系の企業の場合は受け入れてくれています。分野によっては十分ではありません。日本には新しい分野を開発するとか、新しいシーズを創り出す人がもつと要ると思

います。そのために大学院後期課程の充実が必要です。これは特に、7大学とか、8大学といわれる大学、大学院重点化をした大学の大きな使命ですね。

生協に期待「文化的な香り」「きめ細かな情報交換」

加藤 生協にたいしてどんな印象、感想をお持ちでしょうか。

皆川 特に、四谷通りの東側には食堂しかないんです。しかし、どんどん新しい建物が建ち、学生も教職員も数が増えていきます。道路の東側にも購買や書籍の店がほしいという声が生協にも寄せられています。そんな声についても後藤先生のご意見をうかがいたいのですが。

後藤 私の場合、最近では直接生協に関わることは少なくなっていて、具体的な問題提起というのは難しいのですが、生協は昔から大学の中にあって学生・教職員にサービスを提供してきました。そう

いう意味で生協は大学にとつて不可欠な存在だと言っていると思いますが、これまで以上にサービスを充実するということは必要だと思います。そういう意味で、いま言われたようなことを実現するということもいいでしょうね。ただ、実現するためにいろんな人に理解してもらう必要があります。

大学も日本もある程度豊かになってきましたので、生活に必要な最低限のことだけを供給するというのではなく、大学が一つの文化圏だとすると、文化的な香り、活動を創り出していく、そういうようなレベルの貢献をしていってほしい。食堂だけでなく、書籍の充実など知的な部分をもっと強化することも必要ですね。

生協はいまわれわれのような教職員との接触はどういう形で進めているんでしょうか。私の場合は1年に1回か2回、教科書の選定のときでうするか聞いてくるくらいで、それも誰か人が訪ねて来

るんじゃないかと、文書が送られてくるだけですが。あとは名刺の印刷をお願いすることくらいでしょうか。きょうのようなインタビューは初めてです(笑)。

教官のほうも忙しいからそんなにしょっちゅう訪ねてこられて時間を取らせるような



ことはいけないけれど、もう少し教職員・学生と交流するよう機会を多くする必要があります。あるかもしれないですね。ただ何かイベントをするということだけでなく、大学構成員ともう少しきめ細かな交流、情報の交換の機会を増やしていくような努力は続けてもらいたいと思います。

大学の法人化があと1年と少しのところきています。これはもう既成事実になっていきます。そうすると法人化がスタートしたときにどう対応していったらよいか、われわれは考えなければいけない。たぶん生協もある程度影響を受けると思います。ぜひきち

んと対応を考えてほしい。いまは国立大学があつてその中の一部として生協があるという感じがですね。これからそういう見方ができないわけではないが、生協も一つの法人、大学も法人ということになると、お互いが

イコールパートナー的な立場で対応することになる。そうなるという意味では生協の重みというものがいっそう増すことになると思います。ぜひ頑張って、大学の人たちにとつてより重要な位置を占めるような生協になつてもらいたいと思います。具体的な個々の要望とか注文は、学生

や助手のような若い人に聞いたほうがよいでしょう。

今井 いま私たちは若尾理事長のもとで生協自身の中期目標を考えております。それは大学の中期目標にたいして生協がどう貢献できるかという立場からのもので、大学の目標と生協の目標を一对のものとして考えております。大学の目標と生協の目標がまったく違うということはあり得ないわけですから、先生がおっしゃったように生協がパートナーとして、学生のため、教職員のために何ができるか、物の提供、サービスの提供を考えていきたいと思っています。

最後に、名大生協は今年創立50周年を迎えます。1月24日には記念式典と祝賀会を企画しています。ぜひご出席をお願いします。きょうは長時間おつきあいくださいましてありがとうございます。(インタビューは12月9日におこないました。文責は「かけはし」編集委員会にあります。文中の見出しは編集委員会がつけました)

名古屋大学平和憲章制定16周年企画
講演と交流のつどい

「若い諸君に訴える」

講師：田口富久治先生 名古屋大学名誉教授
元法学部教授(元名大生協理事長)

また16回目の記念日がやってきます。名古屋大学において平和憲章が制定されてから16年が経ちました。21世紀に入りましたが、相も変わらず政治情勢が不安定で中東では戦争が起きることも予想されています。北朝鮮の核開発再開も近隣諸国だけに大きな問題です。

こんな時こそ大学構成員である私たちが平和の声を挙げないでいいものでしょうか。日本もイージス艦の中東への派遣など戦争という枠組みに組み込まれて行っております。あくまで強硬なブッシュ政権の横暴を許さず、平和的な話し合いで解決出来るものと思います。田口先生のお話を聴きながら平和について語り合いましょう。

日時：2003年2月5日(水) 18:00～20:00

会場：理学部大会議室(理学部C館2階)

日程：

18:00 講演「若い諸君に訴える」田口富久治名誉教授

19:00 質疑応答、軽食をとりながらの交流

20:00 終了

※軽食と飲み物を用意します。食数確定のためぜひとも事前申し込みをお願いします

お申し込みは、クイズ・アンケート回答用紙のページにあります。

問合わせ・申込み先は、e-mail: kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp へ

企画：名大生協教職員委員会

(名古屋大学平和憲章委員会との共催を依頼しています)

第15回音としゃべりの金曜サロン「ギターアンサンブル」

世界の名曲を

ギターの調べで堪能



十一月二十九日、金曜日、レス
トラン「花の木」(グリーサロン
東山内)で第十五回「音としゃ
べりの金曜サロン」を開催しま
した。今回は委員の紹介で名古
屋近郊でギターの音楽教室を開
くとともに、名古屋ギター・オー
ケストラを組織されている先
生方をお呼びしての爽やかなギ
ター・アンサンブル(＋フルー
ト)によるコンサートでした。

十七時半受付開始と同時に参
加者が集まりはじめ、先に食事
を終えるということで、ちよつ
と豪華な松華堂弁当に舌鼓を打
ちました。十八時十五分演奏開
始です。初めにヨーロッパの名
曲から「アルハンブラの想い出」
がギターソロで演奏されました。
それからいろいろな音階のギ
ターを組み合わせたアンサンブ

ルでドイツ人パツハ作曲の「ボ
ロネーズ」、フランスはポール
モーリアの代表作「オリブの
首飾り」、中南米はフォルクロー
レの代表作「コンドルは飛んで
ゆく」と続き、名曲による地球一
周のはじまりです。曲によって
は女性2人によるフルートが入
り、とてもよいものでした。ここ
でメンバーの1人である原田健
氏は第三十一回全日本ギター・
コンクールでグランプリに輝い
た受賞曲「グランボタ」を独奏し
ました。緩やかな演奏、激しく高
揚する演奏、ギターでできるテ
クニックを全て取り入れた難曲
で迫真の演奏でした。日本の「浜
辺の歌」では、箱に入れた米と小
豆によるさざ波の効果音も入り、
その情景が目に見えかぶような演
奏でした。十九時から十分の休
憩を挟み後半に入り、ブラジル
はボサノバの名曲「想い溢れ
て」、アメリカはシックなジャズ
の曲「ミスティ」、ウィーンはチ
ロル民謡「うるわしき我チロ
ル」、ロシアは「熊蜂飛行」を世
界初のエレキギターとクラシッ
クギターの編成で熱演。アン

コール曲として「蒼いノクター
ン」が演奏され、実に爽やかなコ
ンサートだったと思います。

ただ、残念だったのは進行を
お任せしてしまったため、いろ
いろな大きさのギターのことや
質問コーナーを設けられなかつ
たことです。参加者の皆さんか
らいろいろなお聴きしたかった
との声がありました。

大学に居ながらにして食事を
しながらのコンサート、いいと
思いませんか? 今度はどんな
方をお呼びしましょうか。今年
度の「音としゃべりの金曜サロ
ン」をお楽しみに。



中腹は紅葉がきれいだが

山頂は早くも冬到来

11月2日(土)、鈴鹿山脈北部の龍ヶ岳(1100m)に登るハイキングを開催。今回は参加申込が少なく男女各2名の計4名の参加であった。7時20分大前バス停を出発して都市高速―東名阪自動車道を利用して8時50分宇賀溪谷駐車場に到着。

売店の入り口にも大きな駐車場が整備されている。そのトイレを借りる。雨は小雨だが雨衣の上を着けて登る。尾根取



山頂は雪。この季節にしてはめずらしい

り付きに新しい東屋が立っている。トイレもあり滝道と尾根道に分かれる。予定通り尾根道を行くことにする。それでも、半分は沢筋に沿って登る。立木が倒壊し、かなり崖が崩壊している。もう10年ほど入っていないだろう。かなりの荒れようだ。沢を渡る緩やかな広場辺りで休憩。杉の林が相当成長しているが、手入れがされていないため、東海豪雨での崩落だろうが杉の木立が至るところで崖側に倒壊している。

11時25分、植林地から、広葉樹に移り、クマザサ地帯に入る辺りで昼食にする。紅葉も始まって綺麗だ。雨は上がらず寒いので、山頂での昼食は無理だと判断した。これが正解だったことは山頂に到達してからわかった。いつものように鬼頭さん宅お手製の「天蒸す」や柿等を

いただき、おいしくごちそうになる。単独が2人、2人連れの女性登山者が前後して登る。上から2人連れが下山してくる。中道からの登山者だという。

12時50分、山頂に到着。ホタテ、カサネ、流石根も前日の雪が解けて、また今朝からの雨で道はぬかるむ。県境尾根の手前の樹林の中で今朝駐車場で行先した一団が昼食を取っていた。雨は雪に変わりとても寒い。留まれば寒いので山頂は写真のみ撮って早々に退散する。山頂は2人連れ2組4人で、私たちと8人になった。

重ね岩は大きな花崗岩の累積岩だ。この辺りからは石樽峠もよく見える。路は相当な下りの連続で、つま先が痛い。山腹の紅葉がとても綺麗で、伊勢湾や名古屋のツインタワーもよく見える。四日市、名古屋港、伊勢湾、知多半島、渥美半島、三河の山など飛行機の上から見えているように見える。石樽峠は車も少なく寒いうえに小雨模様で行楽客はすぐに立ち去る。それでも車は時折やってくる。峠の下の

空き地で休憩して喉を潤し、甘いもので補給する。



下山路は沢道コースの長尾滝にて

小峠入り口では車道は危険なので予定通り山道に入る。かなりの倒木量で荒れている。砂山コースではなく長尾滝に入る。長尾滝は2日続きの雨で水量が多い。途中4カ所ほどの徒渉箇所も緊張する場面である。夕闇が迫り寒いので休憩は短時間になる。

鶴の巣東屋(今朝登った登り口の名称)でトイレを済ませ、雨衣をしまつて、駐車場に急ぐ。17時に宇賀溪谷駐車場を足早に出発し、19時に名大に無事帰ってきた。1時間遅れの行動になったが無事歩き通したことに自信を持って、これからは登りたい。

自然の中で真っ赤に実った りんごはとっても美味しかった

11月3日(日曜日・文化の日)

今年もやって来ました、毎年大好評の松川Fエースのリンゴ産地、ここ松川は伊那谷の中央に位置する。天竜川を挟み、東西に延びている。秋空を眺めれば、中央アルプス、南アルプスが凛としてそびえ立つ景観はお見事。ハッと息が止まるような眺めである。

河岸段丘の肥沃な台地に、りんご「ふじ」がたわわに実り太陽に輝いていた。参加者は教職員とその家族・知人の総勢二人。今後も名大生協を支える元気な面々である。

では早速、松川Fエースりんご園・奥村農園主の奥村孝吉さんの話を、かいつまんで紹介しよう。

「わたしたちFエースりんごは、名勤生協で20数年来、産地と消費者の提携商品として開発しました。減農薬の安心・安全なりんごを求める消費者の願いを、私達、松川Fエ



ースが受け止めて育ててきたりんごです。そもそもりんごは、無農薬で作ることは不可能です。いかに農薬を減らすかです。名勤生協の依頼で、無農薬りんごを実験的に実施してみたが、3本完全無農薬で育てたが何と2個しかできなかった。それではどれだけ

削減も可能となってきた。Fエースでは収穫の1ヶ月前には、農薬散布を打ち切っています。市販のりんごは、農薬を散布してすぐに出荷している。スーパーとの契約で、農薬散布を5割カットのところもあるが、その分、強い農薬を使用している。日

農薬を減らすことが可能か、いろいろ取り組みました。農協が作成している農薬散布の「マニュアル防除暦」があるが、その農薬の3割をカットを目指して取り組んできた。いまでは4割カットで収穫できるようになってきた。さらに木酢を使用して5

本中で収穫1ヶ月前で、農薬散布を打ち切っているのは、まずFエースだけでしよう。

よくつく虫としては、カメ

ムシとシンクイムシがいる。シンクイムシは4年に1回大発生する。シンクイムシにや

られると消費者の皆さんのところへ届いてからすぐ苦情がくるのは、この虫の害です。

中から腐ってきます。やむを得ず殺虫剤を散布した場合は、出荷を遅らせていますので、

配達が遅れることもあります。りんごの花芽は一つの所に、中心の一つ、先回りに4つ咲

く。この周りの4つを取り除き、さらに葉の集まり5つに1個になるように摘果する。

それをせずに、たくさん実らせると翌年は、花が咲かず葉っぱばかりになってしまう。

りんごの蜜は、デンプンが蜜化したもので12月には、またデンプンに戻り消えてしま

う。温かい内に蜜化すると一

〇月に黒く変色することもある。

りんごの木一本で、約千二百個もとれる。

リンゴは糖度があれば美味しいのではなく酸味がないと美味しくない。

『ふじ』は、国光とデリシャスを交配育成し一九五八年東北7号として発表、一九六二年ふじと命名した。特徴は平均個重三〇〇g。日本のりん

ごを代表する品種で、味が良く果汁が多く貯蔵力は極めて高い。Fエースの在る伊那谷で生産されている。

その他にも王林、陽光などや品名は忘れましたが、新しい品種に挑戦し、とても美味しいリンゴが生産出来るようになった。まだまだ数が少ないので高価だが、数年経った

ら安価に手にはいるようになるだろうとのことであった。

また、梨についても20世紀や近頃高級洋梨として名前が

売れてきたル・レクチエやラ・フランスなど多くの果物の生産に携わっています。

いろいろな輸入果物に国内産は押されていますが、安心・安全な作り手のわかる国産の果物をもっと食べて欲しいとのことでした。

Fエースの名前の由来

中央自動車道（松川インターチェンジ）を誘致して、地

元を振興させようと運動していたグループ（13人）が、誘致運動後も『このままグルー

プを解散させずに、力を合わせて果樹栽培のリーダーとなるべく組織を作ろう』と話し

合い、そのとき付けた名前がFエースです。フルーツ（果物）、フレッシュ（新鮮）、

ファミリー（家族）、ファミリー（農業主）、ファイト

（闘志）などの意味の頭文字のFをとってFエースと名付けました。生協組合員の秋は、

Fエースから始まります。安全・安心の果物をお届けし、組合員の皆さんに喜んでもらえるよう日夜努力しています。などなど、盛り沢山話されました。

その後、「伊那谷道中」と

「満願成就の湯」へと行き、紅葉の連山と爽やかな風に、

疲れた魂を休ませることができた産地見学であった。マイカー乗合で行った、くだもの里―松川のりんごのふる

里は、もう・・・雪の中であ

生協創立50周年記念北部生協まつり 教職員委員会企画報告

第28回生協まつり献血結果

108名のご協力ありがとうございました。

受付段階でお断りした方が16名いました。理由は薬の服用中などによるものです。名大生の場合400mlの協力者が87%と多いのが特徴です。2日間で108名のご協力をいただきました。

映画上映会

「ハリーポッターと賢者の石」に15名

「千と千尋の神隠し」に30名

今回はまつりをお店で盛り上げようと今年の話作2本を夜の営業のないゆ〜どんで上映しました。

ポカシは6個

生ゴミの有機肥料化促進剤としてのポカシの販売普及は6個でした。少し人気薄でした。

献血結果	受付者数	献 血 者		
		200ml	400ml	200ml 換算
11月27日	66	8	52	112
11月28日	58	6	42	90
計	124	14	94	202

Fエース産直リンゴは24箱販売

めいきん生協と産消提携している長野県松川の省農薬Fエースリンゴの産直販売は予定数25箱を完売しました。

減農薬米ミネアサヒは150kg完売

委員会の柴田氏が生産したミネアサヒは減農薬新米で安心安価で好評でした。

赤ちようちん

11月28日(木)午後5時30分開店の赤ちようちんをゆ〜どんで開催。参加者は35名とチケット販売が進まなかったこともありちょっと少なかったですが、参加した人は机をつなげて交流するなど和気あいあいと楽しんでいただきました。どうもありがとうございました。

教職員委員会活動日誌(2002年11・12月)

月 日	事 項	場 所
11月 5日(火)	創立50周年実行委員会	ゆ〜どん
6日(水)	11月度常任理事会	ゆ〜どん
8日(金)	11月度第1回教職員委員会	北部食堂ホール
9日(土)	東海地域センター教職員セミナー	サイプレスガーデンホテル
11日(月)	中期計画検討プロジェクト	ゆ〜どん
18日(月)	11月度理事会	フレンドリィ南部
22日(金)	11月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
26日-29日	生協創立50周年記念北部生協まつり	北部厚生会館および周辺
	26日「ハリーポッターと賢者の石」上映会	
	27日「千と千尋の神隠し」上映会	
	27-28日献血、28日赤ちようちん	
29日(金)	音としゃべりの金曜サロン・ギターアンサンブル	レストラン花の木
12月 2日(月)	中期計画検討プロジェクト	ゆ〜どん
6日(金)	12月度第1回教職員委員会	ゆ〜どん
9日(月)	工学研究科長インタビュー	工学研究科長室
9日(月)	12月度常任理事会	ゆ〜どん
18日(水)	12月度理事会	南部食堂ホール
20日(金)	12月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
25日(水)	創立50周年実行委員会	ゆ〜どん

三ユリスに二喝!!

子育ての負担

ラジオを聞いていたら、子供を持つて半年の親、五千人ほどを対象に調査したところ、実に79・5%が、子育てをかなりの負担に感じ、その理由が自分の時間を持ってないことにあるということだった。今後、この追跡調査を行うということだ。

最近、子育てをめぐるトラブルが多い。三歳の子供に何も食事を与えず、段ボール箱に入れて放置して死に至らした若い親に殺人罪が適用された。裸にしてベランダに縛り付けて凍え死にさせた親、殴る蹴るの暴行を加える親、何とも痛ましい。年寄りとともに、子供受難の時代だ。何とも文句の言えない子供は言えないような気がした。

カナダのトロントで生活し子育てしているハヤブサの話を二三日前テレビで見たあとだけに、簡単に言えないが、子育てに、簡単に「畜生」にも劣るのか、と悲しくやるせない気分になった。かのハヤブサ、キングスレーとビクトリアの夫妻、ビル

の子がいる。夫のキングスレーはせつせと狩りに出かける。獲物があると、空中で受け渡し。まさに曲芸。ある時、キングスレーが帰ってこなくなった。ハヤブサを見守っている連中が、その死体を見つけた。ビルに激突したのだ。腹へこの子供を抱えたビクトリアが意を決して狩りに出かける。別のアメリカハゲワシに攻撃されたりして。夜まで、ネオンの光を頼りにほそぼそと子の空腹を満たそうと努力。そのうち子供同士のけんかも始まる。夜も寝ずの狩り。ある日、ついにビクトリアも帰ってこなくなった。あるビルの屋上で死んでいた。衰弱しきり、胃の中は空っぽだった。両親を失った子供は保護隊が何とか育て上げた。今日の新聞には、三十年前のこととして、クラスのいじめられた子供のことがあった。その子は給食のパンを半分残して家に持ち帰っていたのまで、いじめの対象になつていたのだった。実のところ、母親が体が不自由で、その子の家にはおなかを空かせた弟が居た。その子のため

れを知って、いたずらつ子たちもシユンとしたとあった。小さいものを愛おしむ気持ちも、誰にもあるのだ。この頃は、何かという負担・負担。進んで、喜んでやれば負担も途端に喜びになると思うのだが。

(田 2002・10・31記)

体当たり作戦

危険きわまりないことだが、この作戦は功を奏した。

今まで、警察は暴走族に甘く見られていた。警察は、結局、遠巻きにするだけで、何も出来まい、何もしまいというので、暴走族のやることは段々エスカレートし、それにつれて、別の事件も発生するようになった。この連中を甘やかした結果だ。広島県警はついに決断した。暴走車に、パトカーを体当たりさせてストップさせるという作戦だ。いろいろ、ためらう意見、批判もあったが、慎重に事を運び見事成功した。目に見えて、その後、暴走は減ったという。批判的意見があることは承知だが、この連中に対しては、多くの迷惑を放置するより、こうした断固たる大人のやる気、厳しさを必要とする必要が、間違いない。た

にやらない、やらせないなどという意見がまかり通っていることだ。いつでも、不法行為には断固たる措置を執る、ということを鮮明にしておかなければ意味がない。世の中の進歩的だと言っている人に限ってそういう意見が多いが、そういう人達は被害にあっている人々には知らん顔だ。自分も被害にあっている人の身になってみて欲しい。その身にはなれなくても、せめてこれに悩む人々の苦しみを思いやるだけの想像力を養って欲しい。

日本の警察は何事も穏便に事を運ぶ。まどろっこしいこともあるが、何でもかんでも、パバンと片づけてしまおう、どこかしの警察よりはよほどいい。しかし、ことによりけりだろう。暴走族なども、その車のタイヤを打ち抜くぐらいのことをやってほしいかも知れない。そうすることだぞ、という強い意志を示すことが、甘えた彼ら、社会を、そして、大人をなめてかかるのを格好がいいと思っている彼らにはいい薬になるだろう。ただ暴走にしか毎日の鬱憤を晴らせない若者をどうするかという課題も突きつけられている。若い精力の吐け口を一緒に考えて考えなければならぬ。

11月26日のNHKのクロージアップ現代を見ていてそう思った。

(田)

水戸

名古屋大学人間情報学研究科 広木詔三

今日は十二月八日曜日。雨こそ降らないものの、どんよりとした天気である。

これから秋という十月下旬に山地で雪が降り、真冬並みの厳しい寒さが到来した。そのためである。今年は例年になく紅葉がひととき美しくかった。十一月の中旬以降には比較的穏やかな気候に戻り、紅葉した葉がなかなか落ちず、かなり長い期間に渡って紅葉が見られた。

アベマキやコナラのようなナラ類はほとんど赤くならず、葉は黄いろから褐色に変わる。余分な葉の養分を枝や幹に戻したあとは、葉は茶褐色となり枯死するが、その直前には緑から黄色へと微妙な移り変わりを示す。ソメイヨシノの葉が真っ先に赤くなり、やがてイチヨウが黄色

い葉に変わり、真っ赤なイロハモミジと黄褐色のコナラやアベマキの葉が色づくのは十一月も半ば過ぎてからである。

十月の中旬に、穂高へブナの黄葉の写真を撮りに出かけた。これまではずべて何らかの調査を目的とした出張であったが、今回はまさしく黄葉の写真を撮影することが目的であった。これまでの研究で、ブナはおおよそ六年ほどの周期で大量に結実することが分かっている。去年は一九九五年の豊作から六年目であった。だが不作であった。やっかいなのはブナの結実周期はササやタケの開花のようにきっかり六十年とかではなく、微妙にずれることである。しかし今年も不作であった。これまでも八年目に豊作になったこ

とがある。来年は八年目なので、おそらく来年こそは豊作であるに違いない。

ブナの豊作の年には大量の果実を生産する。果実に養分を回すと、葉に養分がそれだけ少なくなり、葉の生産が抑えられる。ブナの豊作の年にブナの大木を見上げると、葉が少ないので、まるで枯れ木のように見える。そこで豊作の前と後で、葉を着けている様子の違いを写真に収めようと考えたわけだ。

穂高へ立つ日の天気予報は雨であった。日帰りは無理なので授業の終わったあと、高山に泊して、翌日の朝に高山を立つた。高山で見る空は、この原稿を書いている今日のようなどんよりとした日であった。草花の写真は曇りのほうが良く撮れるというが、高い木の樹冠の撮影はそうはいかないであろう。雨の場合は、撮影も出来ず、今回の出張は徒労に終わるであろう。帰ってから日程が詰まっているの、バスの中で折るような気持ちになる。ところが幸いなことに、新穂高温泉街に着くこ

ろは日が照ってきたではないか。ブナの黄葉も素晴らしい。写真を撮り終えて、左俣谷を下り始める。すると、山の峰々には雲がかり、冷たい風が吹き下ろし始める。ほんのひとときの晴れ間であった。

穂高から戻るや、その翌日には筑波に立った。植生史学会が開催されるのであった。最初は出ないつもりであった。一つだけどうしても情報を得たい発表があった。シイの遺伝子解析に関するものである。筑波は不便である。東京からバスで行く手もあるが、今回は常磐線の荒川沖から入った。帰りは水戸まで足をのばし、姉の家に泊した。目的はドイツ表現主義の絵を見ることである。姉の家から十分もかからないところに水戸芸術館がある。そこは私の小学校があったところだ。小学校の頃少々遠い気がしたものが、今ではごく近く感じる。行ってみると当館ではドイツ表現主義展は行っていない、と言う。茨城県立近代美術館でやっていると言う。ええッ？ 水戸に二つも

美術館があるのか？ 私が水戸を離れるまでは近代的な美術館はなかったのに、というわけで、私はもう一つの美術館を目指す。バスで駅裏方面に向い、千波湖という湖のほとりで降りる。この湖は長さおよそ二キロメートルあり、近代美術館はその一方の端の湖畔に在った。

以前に見たドイツ表現主義は色彩がけばけばしく、あまり馴染めなかった。新聞記事の解説を読んで、あらためて見ることにしたのだ。館内に入るとカンジンスキーをはじめ、赤や黄の原色が自己主張している。画家の名前は忘れてしまったが、お目当ての絵もある。赤や黄で塗りたくられ、黒の太い線で囲われたグロテスクな男と女の裸体画である。時代背景について知識がなかったら、何という絵だろうと感じたに違いない。自らも絵筆をもったヒットラーがドイツ表現主義の絵画を退廃芸術の烙印を押した、と言われている。これら表現主義の流れを汲む絵は、ドイツの抑圧的な雰囲気の中で内面の情熱を形に

したものである。そのような時代背景のもとに見直すと、一見グロテスクな絵がまた違って見えてくる。

このような作品群の中で、ある画家の作品がとくに注目を引いた。マリアンネ・フォン・ヴェレフキンというロシア系女流作家のものである。他の画家たちのような原色の鮮やかさは用いておらず、他の作品とはかなり異質である。彼女の作品の一つである『アーレンシヨープの断崖』は、海と崖壁を大胆な構図で対比させたものだ。厚い雲が覆った暗い空から光が洩れ、暗緑色の海原で紫の光となつて反射している。彼女の絵は、他の画家たちと違って、鮮やかな色彩を使っていないが、確固とした構図の中で、大きな感情を呼び起こす。他の二つの『黒い衣の女たち』と『警察官ヴィソニウス』は、全く異なる光景であるが、やはり大胆で確固とした構図のもとに味わい深い色調が現れている。そして静かな画面が無意識のうちに感情に訴えかけてくるのである。『警察官ヴィソニウス』

ス』では、レンガ造りの洋風の建物が大きな画面いっぱい描かれている。夜の薄暗がりの中にランプの光で建物が見える。建物の間を道が走り交番があり、道路上では何かが燃えているようだ。そのそばに警察官が立っている。たいへん静かな光景だ。人物は身じろぎもせず、何か感情を抑えられている感じがする。それにもかかわらず、不思議な情感を醸し出している。

美術館を出ると、色づいたイチヨウ並木が道の両脇に並んでいる。外はまだ明るい。いつもどおりして絵を見たあとは景色が印象深く見えるのだらう。イチヨウ並木をくぐって、バス通りへ出る。バス停に立つと、湖が見える。空はどんよりしているが、湖面がきらきら輝いている。周囲の木々がまだらに色づいていて、シスレーの絵を見ているようだ。どんよりとくすんだ雰囲気の中で湖面が光っている。ジョギングしている人がある。夫婦連れもいる。現実そのものが絵のようである。

姉の家に戻る。チンチラの猫

フクがいる。半年以上も会わなかったら、また人見知りをする。振られた恋人に對峙したときのような気分を味わう。慣れるまで一晩かかった。一回り大きくなって、今では外出もするそうだ。裏の家の庭や縁の下でくつろいでいるという。なかなか外に出さないようにしているせいだ。姉が外で見かけても知らん振りを決めこむというところが面白い。

水戸を立つ前に、駅前の川又書店に立ち寄る。四階に理工系の専門書コーナーがある。春に覗いたときには、私の『里山の生態学』はなかった。そのときは古い生物学関係の専門書が売れずに残っており、こんな本が出版されていたのかと驚いた記憶がある。私の本は、なかなか見つからず諦めかけたときに、ふと目に入った。少々嬉しかったが、ずっと売れずに埃をかぶるか返本されるのが落ちであろうなどと考えると少々寂しい気がした。特急に乗り、電車が上野に着く頃にはすっかり暗くなっていた。

非民主黨

今度の民主党の鳩山代表の引き下ろしは、小泉首相が、代表選挙が終わったばかりなのに、と言っていたのに代表されるように、民主党とは名ばかりの誠に不可解千万なことだった。代表選挙で負けた人達が、選挙で選ばれた人をその直後から気に入らないから辞任せよなどというものがまかり通るならば、何のための選挙かと言わざるを得ない。特に、立候補して負けた人達が、ごちやごちや言うのは全く筋が通らないことだ。辞任を発表した議員総会で離党を表明した人がいた。理由はよく分からないが、理不尽なやり方にノーマを突きつけたということだろう。代表個人が好きとか嫌いという問題ではない。要は、民主主義のルールの問題だ。それをも、「政治的問題」で片づけるなら、政治が、民主主義を重んじていないことの表明になる。

もちろん、鳩山代表のやり方に拙劣さはあったように、素人にも思えることがある。何事も、まず身内の人々、自分の手足

になって働いてくれる人々に、逐一、考えを示し、意見を徴し、又考え、さらに考え、それが固まってきたら、外部に対して発表すべきが本筋で、外圧によってことを決するということや、一方は、一種の非常手段、今度の野党連合ということも、その理由にはなりにくい。今の民主党を見てみると、民主党こそが一種の野党連合で、一つの政党をなしていないように思う。自民党とて同じ事とは思いますが、権力を握り、そのおごりばれに預かる与党と野党の決定的違いがあるように思う。今回の騒動を見て、民主党が、一つの政党とは思えないことは、先の代表選を戦った負け組が、全然自分が負けたと思っていない、従って代表を代表とも思わないところにあるように思う。それも、初戦で負けた連中がそうだから、始末が悪い。獅子身中の虫にやられたということか。

こういう、政治の世界の不毛の争いを見るにつけ、政治家のモラルについて考えさせられ

る。自民党でも、又ぞろ小泉下ろしが始まろうとしている。やはり、ルール違反である。こういう、ルール違反を平気でやるような人々に政治は任せられない。若い人もいるけれども、総じて熟年、それより老年の方々。今進行しつつある世界の動きから全く取り残された人々。

企業のトップが、若い世代にバトンタッチして再生した話を聞く。政治の世界も、もう、往年の手法は通用しない。若いばかりが能ではないけれども、新しい発想もあろう。年取っても、政治の世界にいたければ、もう一つ、全てボランティアで、名誉職として何の権限もない議会を作り、そこで働いて頂いたらどうか。たまにはいいことも仰有るだろうから。議員にも、世間並

みに、定年制を設ける必要があろう。それに、是非、考えて欲しいと思うのは、今の議院内閣制が、もううまく機能していないということだ。立法府と行政府は別々であるべきで、それが厳しく対峙していくところに緊張感のある政治が行われると思うのである。折しも、山本周五郎の「晩秋」という短編を聞いた。藩政改革の基礎を作った進藤主計が、その中で有為の人材を失わざるを得なかったことを顧みて、自己自身を冷徹に断罪するその厳しさを聞いて感動した直後であった。

最近、政治の世界でも、経済界でも、責任をとるということとがあまりにもいい加減なように思えてならない。(丁)

無差別銃撃

最近アメリカ東部で起こった連続無差別銃撃事件はアメリカ社会の病んだ面をいやと言うほどさらけ出したものだ。ようやく容疑者が逮捕された。もと

米軍の軍人だった。名前や顔写真から見るとアメリカ社会のマインリティーのように思える。それはともかくとして、相変わらず、銃が野放しにされて

いることがこの事件の重要な要素である。銃がなければ少なくともこんな事件は起きない。以前に起きた、服部君の射殺事件もそこに銃がなければ起きなかった。もつとも、日本でも刃物で多くの小学生を殺傷するといふような卑劣な事件や、代議士が包丁で刺し殺されるようなこともあるから、何とも言えないけれども、やろうと思えばどうやってもやれるのだから銃撃の場合は、遠くから人に姿を見られずに出来る刃物とは違ふ。とにかく、武器としての銃が合法的に持てるということが、なんと云っても、野蛮である。一人が持てば、自衛のために持つというところで、限りなく広がる。法的に持てなくするほかにない。銃器・兵器産業のロビー活動の激しいアメリカでは戦争や殺人がなくては困るのだから、どこかで悪循環を断ち切つて欲しい。しかし、この行き着く当然の帰結は軍備や兵器の廃絶ということのはずだから、アメリカ政府は自己矛盾を抱えて簡単に出来ないことは分かる。今年、国防予算として、44兆円を計上したそうだが、それで、破壊兵器を生産し、世界を支配しようというのだろうか。

が、所詮、力の支配は見せかけ。その金を、飢餓救済、生活基盤整備、衛生対策、教育などに使ったかどうか。暴力に対して、暴力で対抗している限り、地上から暴力はなくなる。青臭いと言われようが、所詮、書生論だと言われようが、これは真理だ。歴史で学んだところによると、豊臣秀吉は朝鮮出兵などで、朝鮮半島の人々、朝鮮に出兵し

キャンセル待ち

一体どうなっているのかと思う。一年近くも前の航空券を予約しようと思つても、満席でキャンセル待ちという。本当なのだろうか。確かに、先に予約されているのだからけれども、大抵は、それは仮押さえ、本当の需要ではないみたいだ。

先日、キャンセル待ちだと言われた。しかしとれた。どうせ満員だろうなと思つていたら、あに図らんや、ガラガラ。なぜ、キャンセル待ちなどという思わせないことをするのだろうか。消息通に聞いてみたら、もつともらしく説明してくれた。空港

の人々や家族をひどい目に遭わせた。今でも、韓国では極悪人だそうである。それは確かにそうだが、一方で、刀狩りを行った。今で言えば、一般からの武器の一掃をしたことは、たとい、自分たち権力者のためだったとはいえ、評価されてもいいことだ。アメリカが銃社会から、一日も早く脱却することを切に祈る。

(T)

で、これこれの航空機は非常に混雑しているので、ご都合のつく方は、他の便に換えてもらえないか、協力金も支払うというようなアナウンスがある。これがあのキャンセル待ちに関係あるのだという。ここで、協力金だけをせしめようとする輩がいるのだそう。どういうシステムでそうなるのかは、聞いてもよく分からない。

よく似た話に、発売と同時に売りきれような人気プログラムの入場券のことがある。電話販売の場合のクラクリを聞いた。コンピュータに詳しいのが、発売時間と同時に次から次へ連続的に全ての電話にかけて、他の人の予約を妨害して買い占め、高値で売るのだそう。そんなことが分かっていいるなら、そんな販売方法をやめればいいのか、売る方は売ればいいのかというのだろうか。

土地バブルも結局はこんな不労所得をねらったとんでもない輩のしでかした物だろう。土地の供給には限度があり、便利などには限りがあるとはいえず、1坪何千万円などというのは、土台目茶な話。1坪の土地が、一体、その値段に見合う働きをするのだろうか。夕張メロン15万円の話は、話題性をねらうだけで、結局、一杯300円のジュースにしてしまうのだそう。そのくらいは、大した罪もないかも知れない。

最近、ホテルの予約もほとんどが電話、ありがたいことには違いないが、キャンセルしても、キャンセル料をとられることもないことが多い。キャンセル料をとれとは言わないけれども、とにかく、航空券に見られるようなキャンセル待ちには異常、こんな販売のやり方は、いずれしつべし返しを食うだろう。

(T)

11・12月号
の感想

広木先生の行動範囲に感心

★新フィールドノートいつも見えています。これだけの連載、広木先生も大変と思いつつ、その行動範囲にいつも感心しています。「かけはし」が手に取ってもらえるひとつになっていると思います。
【竹村京彦】

愛犬の交通事故を思い出した

★魔言の「犬死」を読んで、二年前の、我が家のブルック(犬の名)の交通事故死を思い出しました。Tさん宅のコンちゃんの場合とは少し違いますが、ブルックの死はまさに「頓死」でした。これが「犬死」であつたのかどうか、未だに整理されていませんが、「犬死」の解明を期待しています。
【コーギー】

理系購買を早くつくって

★ロジック簡単でした。はやく理系の購買をつくってください。
【いちおし】

学問研究って何に役立つの？

★22ページのノーベル賞の記事に激しく同意します。学会などでもよく企業の方々は大学側の発表者に対して、「それは何に役立つの？」「これ、実業にはあまり使えないんじゃないの？」などという発言が結構あります。大学側もなるべく、こういう理由で社会に貢献できるよと、心の中では「こんな実用化なんて無理じゃんw」なんて思っているけど書かなければならないのが現状というのはよく分かります。また、不景気だから企業は常に有用なものを求めているかないとあつたという間に倒産してしまうという立場にあるのも分かります。ということで、いつそ大学を2派に分けてしまつてはどうでしょうか。学問特化型大学と、企業適着型大学。もしくは同じ大学内で企業型研究室と学問型研究室にわけるとか。(すでにやつてるかもしれませんが)そうすると多分就職率とか科研費に格差が出てきて学生の希望に偏りが出ると思いますが(笑)。学問特化型はきつと金もらえないんだろうなあ。よほどいい結果を出さないと就職率も悪いんだろうなあ。結局生

きるためには金！世の中金ツス！っていう人が多いと思います。ところで、23ページの愛国心ってどういう基準で決めるんでしょうか？知ってる方いらつしやいますか？
【カフエオレ大好きっ子】

「役立たない」に共鳴

★ニュースに「一喝の「役に立ちません」大学人として共鳴します。その裏にかくされた「思い」がすごく伝わって来ましたから。そしてもう1人の田中さんに、日本の「しがらみ」の複雑さを改めて考えてしまった。
【らくだのももひき】

まつり記事参考にしました

★生協まつりの記事が色々楽しかったです。おかげで、買い物映画と楽しめました。
【鈴木知己】

意見と

通信

ビデオ上映会は大丈夫？

★ビデオ上映会は著作権的に大丈夫なんでしょうか？心配です。
【いちおし】

ニーズにも敏感に

★生協は当たり前のような存在になつていますが、大学生活での役割は大きいものと思います。基本を大切に、ニーズにも敏感に、今後も期待しています。
【竹村京彦】

4か月ぶりのかけはし？

★夏休みをはさんで4ヶ月ぶりに「かけはし」が届けました。9・10月号は発行されていたのですね。知りませんでした。
【コーギー】

集合がもう少し遅ければ

★山登り企画を時々見るのですが、集合時間がもう少し遅ければ参加したいな、といつも思っております。
【鈴木知己】

ご飯の盛りは一定に!!

★北部食堂のごはんの盛り方が一定じゃないです。あと声カートの更新期間がどれくらいなのか分からんです。
【カフエオレ大好きっ子】

▼申し訳ありません。どの職員が盛りつけても一定になるよう再度各店舗に指導します。声カードは回収した曜日にもよりますが、回答は一週間遅くとも10日以内でできるよう努力しています。
【栗田食堂部長】

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名.....組合員証番号.....

○所 属.....研究科
学部
センター.....専攻・課
学科・掛（教職員・院生）

○連絡先.....内線.....

○誌上匿名希望の方はペンネーム.....

.....山.....折.....り.....

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 245 号

クイズのこたえ _____

☆ 今月号を讀
んでの感想

☆ 記事にしてほしいこと。生協へのご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

CO-OP QUIZ

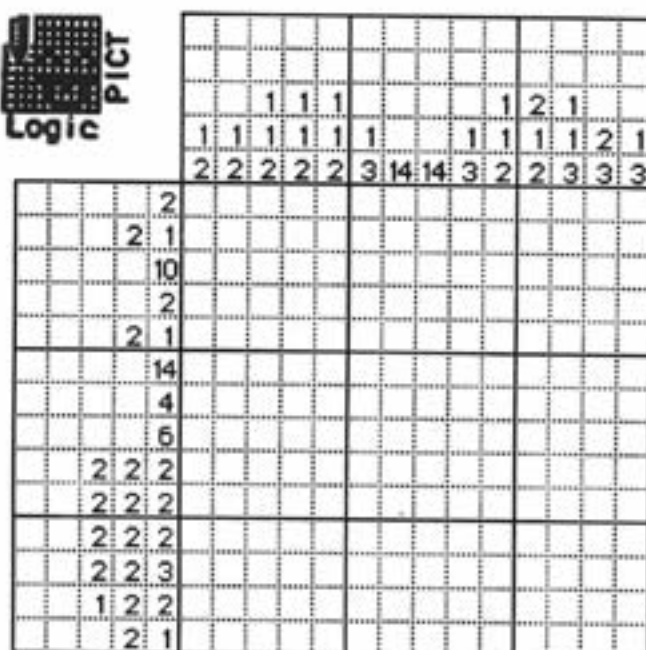
No. 245
2003年1・2月号

縦と横に書かれた数字にしたがってマスをつめていくと絵（または文字）が現れます。それは何でしょう。（ヒント＝今年は・・・）

クイズが解けたらぜひ応募してください。クイズの嫌いな方は、ご意見だけでも歓迎します。

前回の正解は「創立」でした。解き方がまだわからない方は、解答の絵の数字と黒マスの関係をよく見てください。

あなたもLogicの問題を創作（出題）してみませんか。問題の投稿も歓迎します。てがきでもOK。採用の方には図書券を進呈。



前回の
問題



第244号の当選者

・応募総数 …… 6人

・正解者数 …… 6人

・当選者（敬称略）

箕一彦（人間情報学研究科）

野崎一洋（理学研究科）

安井幹夫（医学部）

神野慎治（農学部）

鈴木知巳（情報メディア教育C）

以上の5人の方に図書券をお送りします。

応募要項

- 締め切りは1月16日
- 発表は本誌、3・4月号
- 正解者（但し、①組合員
②当選後ご加入も可、
③意見・感想記入者）の
中から、抽選で5人の
方に図書券をさしあげ
ます。
- 生協への意見・要望をど
しどしお寄せ下さい。

名古屋大学平和憲章 (1987.2.5制定)

わが国は、軍国主義とファシズムによる侵略戦争への反省と、ヒロシマ・ナガサキの原爆被害をはじめとする悲惨な体験から、戦争と戦力を放棄し、平和のうちに生存する権利を確認して、日本国憲法を制定した。

わが国の大学は、過去の侵略戦争において、戦争を科学的な見地から批判し続けることができなかった。むしろ大学は、戦争を肯定する学問を生みだし、軍事技術の開発にも深くかかわり、さらに、多くの学生を戦場に送りだした。こうした過去への反省から、戦後、大学は、「真理と平和を希求する人間の育成」を教育の基本とし、戦争遂行に加担するというあやまちを二度とくりかえさない決意をかためてきた。

しかし、今日、核軍拡競争は際限なく続けられ、核戦争の危険性が一層高まり、その結果、人類は共滅の危機を迎えている。核兵器をはじめとする非人道的兵器のすみやかな廃絶と全般的な軍縮の推進は、人類共通の課題である。

加えて、節度を欠いた生産活動によって資源が浪費され、地球的規模での環境破壊や資源の涸渇が問題となっている。しかも、この地球上において、いまなお多くの人が深刻な飢餓と貧困にさらされており、地域のおよび社会的な不平等も拡大している。「物質的な豊かさ」をそなえるようになったわが国でも、その反面の「心の貧しさ」に深い自戒と反省がせまられている。戦争のない、物質的にも精神的にも豊かで平和な社会の建設が、切に求められている。

今、人類がみずからの生み出したものによって絶滅するかもしれないという危機的状況に直面して、われわれ大学人は、過去への反省をもふまえて、いったい何をなすべきか、何をしうるか、鋭く問われている。

大学は、政治的権力や世俗的権威から独立して、人類の立場において学問に専心し、人間の精神と英知をにうることによってこそ、最高の学府をもってみずからを任じることができよう。人間を生かし、その未来をひらく可能性が、人間の精神と英知に求められるとすれば、大学は、平和の創造の場として、また人類の未来をきりひろく場として、その任務をすすんで負わなければならない。

われわれは、世界の平和と人類の福祉を志向する学問研究に従い、主体的に学び、平和な社会の建設に貢献する有能な働き手となることをめざす。

名古屋大学は、自由闊達で清新な学風、大学の管理運営への全構成員の自覚的参加と自治、各学問分野の協力と調和ある発展への志向という誇るべき伝統を築いてきた。このようなすぐれた伝統を継承し、発展させるとともに、大学の社会的責任を深く自覚し、平和の創造に貢献する大学をめざして、ここに名古屋大学平和憲章を全構成員の名において制定する。(前文より)

名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052> 781-1111 (内線7540)

- 書籍(和書・洋書・雑誌)に関するご相談は ●旅行(国内・海外)・宿泊に関するご相談は
北部書籍(内線7544) 南部書籍(内線7551) 北部旅行・サービスセンター(内線7543)
医学部書籍(内線5208)大幸書籍(内線5552) 南部旅行・サービスセンター(内線7550)
- 文具・事務用品に関するご相談は 医学部旅行・サービスセンター(内線5213)
北部購買(内線7542) 南部購買(内線7549) ●印刷とネットワークに関するご相談は
医学部購買(内線5209)大幸購買(内線5552) 印刷・情報サービス部(内線7552)
農学部購買(内線7557) ●パーティー料理・弁当に関するご相談は
●レストラン「花の木」(内線7605) 弁当部(内線7553) 理系食堂(内線7555)